



みどりの エッセイ

Vol.19

須藤元氣 〔作家・タレント・元格闘家〕

木に触れることにより よって有機的秩序を とりもつことができる

僕は東京生まれの東京育ちなので、自然に対する憧れというものはすこく強くて、いずれは森の中で生活したいという気持ちがありました。

ちょうど今、北海道の網走の山のふもとに土地を買って、ログハウスを建てている最中なんです。国産材を使って建てています。正直、最初は国産材を、という意識はありませんでした。いろいろと勉強していく中で、その土地にはその土地のものを使うといい”ということを知ったんです。じゃあ、北海道に建てるなら北海道のものを使おう、と。

なぜ、北海道でログハウスを建てようと思ったかという…。仕事でいろんな所へ行ったりして、様々な土地を見てきました。その中で北海道だけは何か惹かれるものがあったんです。活動の拠点は東京なんです。今は執筆を中心にしているので、本を書くには森林の中という静かな場所が必要だったんです。木に触れることによって有機的秩序をとりもつことができると思っています。北海道の土地は充分に広いので、木を植えて森にするという計画を立てています。すでに記念樹を植えたので、その木と共に成長していきたいです。

〈プロフィール〉

須藤元氣（すどう げんき）

1978年東京生まれ。様々な大会で優勝を手にして、格闘家として活躍するかたわら、役者（映画「凶気の桜」「フライ、ダディ、フライ」などに出演）や、書道展入選などマルチに活動。2006年、引退表明後は映画監督、作家として活動し、注目を集める。著書は「幸福論」「風の谷のあの人と結婚する方法」など多数。昨年11月に最新刊「キャッチー・イン・ザ・オクタゴン」を発表。また、母校である拓殖大学レスリング部監督に就任。

ね。登山をたまにするんですけど、山はエネルギーの補給というか…。地球が一つの生命体だとすると、山はお母さんのおっぱいですよ（笑）。ミルクを飲みに行くというか。山に登ると自分が自然の一部だということとを覚えてもらえます。自然は僕らのものではなく、僕らが自然のものだという、その根本的なことに気がつかれます。今、自然との秩序が崩れかけてきていますよね。それは人間の心理にも影響があると思います。僕は精神的に迷った時は山や海へ行くようにしています。すると、ノイズが少なくなつて、クリアになるんです。だから、月に一回でも自然とふれあう機会を作るようにしています。そうすることによって直感やインスピレーションが出やすくなるんです。ホント、自然とのふれあいは大切だと思います。